

「教師力」の向上を目指した現職教育の充実 教職員の専門性と資質・能力の向上を図る校内研修の推進

I はじめに

多くの課題を抱えた学校現場で教育活動の充実を図るためには、教職員一人一人の専門性や資質・能力の向上は必須の要件であり、現職教育とりわけ校内研修の果たす役割は重要である。

本研究においては、校内体制づくり・校内研修体制の確立や「教職に対する強い情熱や意欲」「教職員としての専門性や実践的な指導力」「人間としての総合的な力」等の資質・能力の向上や意識の高揚を図るために校長はどう関わればよいのかについて、具体的な実践事例をもとに検討してきた。

II 研究の概要

平成20年度は、各校の現状に関する多様な事例報告もとに、校内研修と校長の関わり方について、校内研修を通して向上を図るべき教職員の専門性や資質・能力とは何かの確認、校長としての関わり方に関する視点の整理を行ってきた。

平成21年度は、校長としての関わり方の視点をより焦点化した各校の事例発表を中心に、各校の実践に共通する視点（重点的な関わり方）を明らかにするとともに、この取り組みの成果と課題を整理した。

1 各校の事例（校内研修への校長としての関わり方）

A校……教育目標具現化のために研究小委員会を設け、校内研修推進の要となる研究主任への指導助言を行うと共に、指導案づくり、授業研究会での指導を通して、研修への意欲付けと研究内容の焦点化を図っている。

B校……教育目標の重点化・目標の共有化、教職員の協働的意識の醸成の視点から、校内研を通して、学校課題・課題解決のための目標・計画・方法を職員にわかりやすく示すこと、全員参加で相互に学び合い、高めあう研究会のあり方の指導に力を入れている。

C校……校内研を通して、授業力の向上を図るため学習過程を例示し、授業づくりに関する職員の意識をかえていく働きかけを行っている。また、授業と評価の一体化を図るための工夫例を示し、授業評価の力を高める働きかけを行っている。

D校……学校課題の解決のため、教職員に対する指導・助言を中心に教材・教具の整備・書籍紹介、授業参観のすすめ、研究主任への指導・推進委員会の活用、働きやすい環境作りを通して、授業研究を中心とした指導法の改善に取り組んでいる。

E校……「目指す子供像」づくりと研究の方向付け、対外的な折衝や研究体制づくり、

研究主任を中心に各部門代表への指導・助言により研究組織としての力量向上を図っている。さらには、教員相互の授業の公開による授業力向上にもとりくんでいる。

F校……学校教育目標と学校経営重点の明確な位置づけ、研究主任との打ち合わせと指導、全職員の参加意識高揚を図る実践に直結した研究内容の工夫等を通して、職員

の質の向上、研究の質の向上に努めている。

G校……自らを手本に指導者としての心得や指導姿勢の啓発・教育相談的な発想による、一人一人を生かす指導、授業観察と授業改善の視点等のアドバイス、授業への指導・助言、研究主任への指導助言と支援等を通して信頼関係の確立による、きめ細かな指導や生きる力を身につけられる指導計画・授業づくりの充実が図れる教職員の育成に努めている。

H校……学習活動における指導と評価の工夫を中心に、日常の学習指導・学級指導等についての指導助言・校内研での助言・研究主任への指導の他、評価の統一性・評価結果の通知方法等に取り組みを通して、教職員の力量向上に努めている。

2 実践事例に見られる校長としての効果的な関わり方

(1) 校長としての関わりの視点と取り組み状況① (位置づけが明確な内容)

- 研究主任への指導助言…経営方針に沿った校内研修の方向付け 6 / 8
- 全教職員の参画…教職員の協働意識の醸成 研究方法の工夫 6 / 8
- 教育目標の実現に貢献する実践的研修…教育目標実現に繋がる研修 日常指導に
生きる研修内容 5 / 8
- 経営的観点…教育目標の重点化・目標の共有化 3 / 8
- 研修の共有化…個人研究の全体への還流体制 2 / 8
- 資質・能力向上のための場…日常的な学び合いの場 2 / 8

(2) 校長としての関わりの視点と取り組み状況② (位置づけが弱い内容)

- 教職員の経験等への配慮…ライフステージの把握、職能発達に関する働きかけ
- 分掌業務と必要な資質…資質能力の把握と資質能力向上のための分掌
- 自主研修の奨励…自主的・主体的な研修意欲の醸成
- 研修の評価…研修活動の評価、研修課題の把握と指導
- 資質・能力を向上させる場…分掌遂行の場の生かし方

Ⅲ まとめと課題

各校の校長がリーダーシップを発揮し、指導助言を加えながら重きを置いて取り組んだ関わり方には共通性が見られる一方、学校の規模や職員構成、校長の指導方針などにより、重点の置き方には工夫が見られる。それが、それぞれの学校の特徴となっている。位置づけの弱い内容項目は教職員評価の項目と重なり、個別的に評価や指導助言がなされており、全体指導に関わる校内研修推進の重点とはならなかったと思われる。多くの事例に学ぶと共に、教職員評価制度との関係も視野に入れながら、校内研修の充実を図り、教職員一人一人の専門性や資質・能力の向上に努めていきたい。

(部長 三枝 修)